



# 迎春

新年、明けましておめでとうございます。  
町民の皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。  
平素は、町行政に対し、温かいご支援とご理解を賜り、厚くお礼申し上げます。

歴史的な政権交代から1年4か月、いまだ経済に好転の兆しは見えてきませんが、成長戦略・観光立国推進の重要性が広く認められ、中国人向け個人観光ビザ発給要件の緩和や、羽田空港の国際化など、「国際観光地」箱根へ追い風が吹き始めているものと認識しています。

観光産業を取り巻く環境が大きく変革しようとする今、町発展の基盤は観光振興にあるという強い思いのもと、多くの方々可愛され続ける観光地形成の規範となる「箱根町観光振興条例」の本年4月施行を目指しております。

さて、昨年6月、小惑星探査機はやぶさが7年越しの地球帰還を成し遂げました。はやぶさが採取してきた微粒子から太陽系成立の謎解明へ夢は広がるようですが、箱根および周辺地域も地球活動の証である火山を始めとして、多様な地質資源に恵まれています。町では、近隣1市2町および県と協力し、これらを保全しつつ、観光資源として活用するため、平成24年度の日本ジオパーク認定を目指し、「箱根ジオパーク構想」を推進しています。これが新たな観光の目玉となり、地域振興につながるものと期待しております。

一方、地球規模の問題として、温暖化の防止があります。皆さまのご理解とご協力のもと、「新たなごみの分別収集」および電気自動車（EV）の利用拡大を図る「箱根EVタウンプロジェクト」を昨年から開始いたしました。CO2の排出削減を図りつつ、多角的に、先人から受け継いだ豊かな自然と景観を大切に未来へ継承していかなければなりません。その一策として「景観まちづくり協力店認定制度」を昨年から実施しております。ぜひとも民間と行政が一体となり、箱根の価値を高めていきましょう。

地方自治を取り巻く状況としては、昨年3月、市町村合併特例法の期限切れとともに平成の大合併が終結を迎えました。県西地域においても合併の検討会を解散し、代わりに昨年4月から「神奈川県西部広域行政協議会」をスタートさせました。喫緊の課題として地域医療や消防の広域化などを具体的に検討しています。また、昨年6月に「地域主権戦略大綱」が閣議決定され、地域のことは地域住民が責任を持って決める地域主権型社会の構築が進められつつ、これまでの価値観が転換されようとしています。

私は、多くの先人たちの努力により築きあげられてきた町の歴史と伝統を見つめ直し、さらに魅力あふれる箱根へと磨きあげ、町民の皆さまが未来に確かな希望が持てるまちづくり、町政運営を進めてまいり所存でございますので、お力添えのほど、よろしく願っています。  
最後になりましたが、新しい年が皆さまにとって幸多い年となりますよう祈念申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

## 箱根町長 山口昇士



明けましておめでとうございます。

箱根町議会を代表いたしましたして、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

町民の皆さまにおかれましては、希望に満ちた新春をお健やかに迎えのことと心からお喜び申し上げます。

日ごろから町議会の活動に対しまして、温かいご支援とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

依然として低迷の状況が続いている日本の経済に拍車をかけるように、昨年ではあらゆる話題が世間をにぎわせ、私たちの生活を取り巻く政治、経済、社会情勢の変化を強く実感した一年でありました。

地方分権が進む中、行政を取り巻く環境も一層厳しさを増しております。自治体の力量が試され、議会の役割が問われている今、抱えている課題に向け、行政と議会が一丸となり努力をしていかなければなりません。そのためには、これからの地方の取り組み姿勢として、「ひとつの見直し」、「ひとつの改善」、「ひとつの削減」といった「ひとつ」の積み重ねが大切となっております。私たち議員も初心に立ち返り、議会として果たす役割・責任を十分認識し、活力あふれた魅力ある町づくりを目指し、議会改革に取り組んでまいり所存であります。

本年は、才知にたけた決断力ある「虎」から、進歩を意味する「兔」へ変化する年であります。兔は跳躍する姿から飛躍を意味しています。

私たち議会もより一層の飛躍を目指し、町民の皆さまのご期待に沿うよう努めてまいりま

すので、町議会へのご協力をお願いいたします。

迎えた平成23年が皆さまにとりまして幸多い年であることを心よりお

祈り申しあげ、年頭のごあいさつといたします。



「箱根駅伝展」  
(役場本庁舎住民ホールにて1月7日(金)まで開催)



## 箱根町議会議長 折橋尚道